



志木三小だより

学校運営協議会スローガン「ともに愛そう わがまち わが学校」

志木市立志木第三小学校

令和5年2月28日

志木市柏町3丁目2番1号

TEL 048-471-1062

競争と協奏～多様な価値を認めること～

校長 関根 久美子

先日、12月に音楽の授業で演奏を披露してくれた「風の五重奏団」のコンサートが三鷹であったので、出かけてきました。物語に曲をつけて、語りと共に音楽を聴くコンサートでした。クラシックのコンサートとは違って、子供にもわかりやすく、心が温くなるコンサートでした。

音楽では「協奏曲」がたくさんあります。「協奏（きょうそう）」というのは「複数の構成要素が連携し合うこと。特に、管弦楽器をはじめとする複数の楽器で一つの曲を演奏すること。」です。同じ「きょうそう」でも「競争」もあります。こちらは、「ある有限の価値の獲得をめざして競いあい、他者に先がけてそれを達成することによって他者よりも優位に立とうとする行動」とされます。どちらも、価値のあることです。社会に出ると、自分と関わる人の性格、言動は様々です。時には自分とは「合わない」「対立する」こともあります。それでも、その集団の目標、さらには自分が幸せに生きるために「協奏」する必要があります。それぞれの違いを認め、特色を感じ合いながら、共通の目標やめあてに向かって、力を合わせていくことは意味のあることですし、「共に高め合う力」「協奏する力」を身につけてほしいです。一方で、自分の力に「慢心」することなく、他人よりもっと「良い記録」「良い成果」を求めて「競争」することも大切です。私たちは、常に「努力」して生きなければならないのです。けれども、「努力」の原動力が「競争」だけでは人として、不十分です。「努力」の原動力は「競争」でもありますが「協奏」でもあるはずで、合奏をする時「協奏」しようとする時、時々「上手に音が出ない」ことがあります。「違った音を出す」時もあります。そんな時「責める」「叱責する」では「いい音」は出ません。「もう一度」「さらにもう一度」その楽器に寄り添って「努力する」しかないのです。

私たちには、たくさんの「優れているところ」「長所」もありますが「劣っているところ」「欠点」もあります。「目が見えない」「指がない」「足が動かない」は「見た目でわかる」のですが、「いじわるな心」「批判ばかりする心」「悪口を言う癖」を持っていることは「見た目ではわからない」です。「見た目でわかる」ことを時として「障害」ということがあります。「障害のある人に配慮を」「障害のある人はかわいそう」という言葉を耳にすることがありますが、人間が持っている「不十分なところ」は誰にでもあります。「見た目でわかる」か「見た目ではわからない」かの違いがあるだけです。「障害」という言葉で「分ける」のではなく、人間が誰でも持っている「不十分なところ」「短所」を含めて、その人を「人」として全部を認め合うこと、そして、共に「より良く生きる」「幸せな人生」を目指して「協奏」の生き方を考えることが、本当の意味での「心のバリアフリー」「インクルーシブな社会」なのだと思います。

子供たちは、成長の過程で、この「互いの違い」に気づいています。「見た目でわかる」だけではなく「見た目ではわからない」ことにもです。けれども、大人のように「違いを認めて対応」したり「うまく対応」したりすることができずにいます。今「違いを含めて全人格を認める」ことを学んでいます。是非、人を「違いで分ける」のではなく「不十分なことを責める」のでもなく、「全て認めて共に生きる」社会の一員としての、成長を支援し、見守っていただきたいと思っています。